

二〇一〇年躍進

チームNeoの始動



【撮影：ユウダイ父】

『洛西地域リーグ』
二〇一一年、少年サッカー界において、8人制が本格的に導入された。それに伴い、JFCでもJチーム・Neoチームに分けられた。そして始まった洛西地域リーグ。両チームは、それぞれ別にエントリーして戦いにのぞむことになった。

『善』戦』

四月十七日、五月七日の二日間、日吉胡麻グラウンドで行われたブロックリーグ戦。

七月十六日、リーグ最終戦がJFC・二チーム、向日市・フォレストの四チームで行われた。Jチームは見事一位となり、京都府リーグへの進出を決めた。一方、Neoチームは対・向日市戦で善戦したものの、その勢いを維持できず、後の二戦をおとした。しかし、全十五チーム中第四位と健闘。両チームの活躍は、応援に駆けつけたJFCサポーターに深い感動を与えた。

『頂上決定戦』

J・Neoともに勝ち進み、京都府リーグ進出のかかった最終順位決定戦に出場した。

『滋賀合宿』

七月十七日・十八日、恒例の滋賀合宿が行われた。前日が地域リーグ最終戦、超過密スケジュールとなった今回、一日目は痛いほどの日射しが照りつける超快晴！しかし……うってかわって、二日目はゲリラ豪雨に見舞われた。たたきつけるように降る雨の中、応援する保護者たちに見守られ、選手たちは雨にも負けず、激しさを致命にプレーした。

『激冷！』

シャワーベットの

本来なら、暑い中がんばる選手たちを「激励」するため、差し入れとして用意されたレモンシャワーベット。しかし、まさかの集中豪雨のおかげで体の熱を奪われた選手たちは、ブルブル震えながらシャワーベットを口に運んだ。

「雨にもマケズ」



タイトル獲得！

『二分の一成人式カップ』

二月十二日に行われたカップ戦。「これまで一緒に歩んできたメンバーで……」という意向のもと、四年生+三年生のチーム編成で挑んだJFC。予選を順当に勝ち上がり、決勝戦では優勝候補の久御山を二対〇で撃破。見事第一位の栄冠をつかみとり、四年生最後の大会で有終の美を成し遂げた。

